

私立入試中心日まで、186日、県公立入試まで、216日

70日間の1学期も今日で終業式です。充実した学校生活が送れたでしょうか？先週末に行われた彩の国進学フェアに多くの生徒が足を運んだと聞いて、進路に対する意識が高まったと感じています。しかし、「説明会・体験入学も参加及び参加予定表」と「特別活動等の記録調査」の提出を忘れてしまう生徒が思ったよりも多くいました。何度も伝えますが、進路関係の書類は締め切りを過ぎると手遅れになってしまうものもあります。また今年度は公立高校の出願に大きな変更があり、複雑化しています。進路情報の連絡と提出物には高い意識を持って下さい。三者面談時には「卒業及び入学試験に向けた氏名記入確認書」を提出となります。進路関係の書類の提出が多くなっていますが必ず提出しましょう。

さて、1・2年生は新人戦に向け、練習に励んでいます。昨年今頃は皆さんも運動部の人たちは、新人戦に向け頑張っていたことでしょうか。これからの皆さんは何に向けて励むのでしょうか？夏休みに、具体的に進路先（志望校）について考え始める生徒や本格的に受験勉強に励む生徒もいます。以下のポイントを意識して、後悔しない夏休みを過ごしてください。

## 1 お知らせ

\*昨年度まで行われていた北部地区県立高校進学フェアは、今年度は行われなくなりました。

令和6年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における各高等学校の選抜基準

検索

埼玉県教育委員会のホームページに各高等学校の選抜基準がアップされました。各高等学校の「選抜の基本方針」や「調査書の扱いの詳細」等が掲載されているのでアクセスしてみましょう。



## 2 夏休みにしてほしいこと

- ①「説明会・体験入学の参加及び参加予定表」を提出しましたが、説明会等に必ず参加してください。気になる高校、気にならない高校あるいは、偏差値の違いで判断するのではなく、高校に足を運び、自分の目と心で感じてください。「百聞は一見にしかず」です。入学したい学校を選択するための判断材料を得るためにも、少なくとも2校以上参加できるとよいでしょう。
- ②1学期の通知表（見開き1ページ）をコピーしておいてください。9月以降の各高校の個別相談会で必要になります。学期の途中で通知表を返却することはできないので、必ず通知表のコピーをしておいてください。

## 3 受験（受検）勉強は何をどのくらい勉強したら？？ ～テキストや参考書について～

受験（受検）勉強を始めるに当たり、「何をどうしたらいいかわからない」という生徒は、参考にしてみてください。

テキストや参考書を準備している人は多いと思いますが、書店などで実際に手に取り、中身を見て自分に合った物を選びましょう。たくさん並んだテキストを見て、あれもこれもと何冊も買ってしまった人もいかもしれませんが、テキストは数をそろえればよいというわけではありません。今後の学習計画の中でこなせるだけの量を準備しましょう。

参考としては、「①1～3年の基本問題集 ②応用問題集 ③過去問題集」を準備しておくのがよいでしょう。①と②は1冊にまとまっているものもあります。また、①の基本問題集は教科書準拠の物を使用すると、定期テストの対策にもなり、一石二鳥です。

問題集を準備したら、問題演習はノートに書くようにして、問題集本体には解答の書き込みはしないようにします。1冊の問題集を繰り返し使うためです。問題集は「①最初に解く②間違いを確認③もう一度解く」の繰り返しで最低でも2回は同じ問題を解くこととなります。間違ってしまった問題をチェックすることで自分の弱点を見つけやすくなります。

学校のワークや塾の教材もある人は活用しましょう。授業の中で解説を聞いて解けた問題も、いざ一人で解こうとするとやり方を忘れてしまっていることがよくあります。いわゆる「わかったつもり」です。授業で習った内容をもう一度復習し、自力で問題を解くことができればその単元は定着したといえます。宿題も答え合わせをして終わりではなく、間違えた問題については繰り返し解き直すことで着実に実力はついていきます。重要なのは問題集を何冊解いたかではなく、1冊の問題集をどれだけ使い込んだかです。ぜひ、参考にしてください。

最後に、例年夏休みは、1・2年生の復習に時間を充て、夏休み終了までに、1・2年生の復習を終える生徒が多くいます。1・2年生の復習は夏休みが勝負です。8月中旬までには、1・2年生の復習を終え、夏休み後半には、3年生の予習・復習まで行えるとよいでしょう。

## 4 志望校選びのポイント キャリアガイド～進路の手引き～より（抜粋）

### ポイント① なりたい職業などから考える

高校卒業後に就きたい職業が決まっていれば、その分野の専門学科がある学校に志望校を絞ることができます。また、大学や短大、専門学校などの上級学校に進学する希望があれば受験を見据えたカリキュラムや補習が充実している高校を選ぶなど、高校卒業後を考えてみましょう。

### ポイント② 勉強したいことや力を入れたいことから考える

なりたい職業が決まっていなかったり、いろいろな分野の勉強をしてから自分の適性を探りたいという人もたくさんいるでしょう。また、将来の夢とは別に、高校でやりたいことがある（部活動など）という場合は、そこから志望校を絞ることができます。

### ポイント③ 校風・施設設備・通学時間などから考える

各校が教育方針を掲げている私立高校はもちろん、国公立高校でも校風はそれぞれ違います。体育系の行事が充実している学校や部活動が活発な学校、規律を重んじる学校、逆に自由な校風の学校などそれぞれの学校に個性があります。

また、グラウンドやプールなどの体育施設、図書館の蔵書数や実験・実習施設など、力を入れたい分野の設備が充実しているかなどはチェックしましょう。気に入った学校であっても、毎日の通学にかかる時間が非常に長いと負担になりますし、高校生活では部活動などで朝早かったり、帰りが遅くなったりすることも多いのでよく考えて検討しましょう。

### ポイント④ 学力レベルから考える

自分の学力レベルから考えてその学校が適正であるかというのは、自分の性格と照らし合わせてよく検討しなければなりません。「合格できればいい」というだけで学校を選ぶと、入学後の勉強に支障が出ることもあります。自分にとって難易度の高い学校に猛勉強して入学しても、途中で周りの人についていくのが辛くなってしまう人もいれば、周りの人から影響を受けてますます伸びる人もいます。一方、自分の学力レベルでは十分すぎるほど余裕のある学校に入っても、周囲のレベルに流されて成績が下がってしまう場合と、逆に成績上位層にいることによって学習意欲が増すこともあります。自分はどのようなタイプなのか？入学後の具体的なビジョンを見通して考えましょう。

### ポイント⑤ 学費、保護者の意見

高校に通うにはお金がかかります。特に私立高校の場合には一般的に公立高校に比べて学費が高くなりますので、保護者と話し合う必要があります。ただし、近年では国や県の学費補助制度が充実してきており、条件が合えば、多くの補助を受けることもできます。奨学金制度もありますので上手に利用しましょう。（ただし、奨学金には卒業後の返金の義務があるものもあります）

どの学校がいいか迷っている場合はもちろん、すでに行きたい学校があるという人も保護者の意見は聞きましょう。あこがれや思い込みで客観的に考えられていない可能性もあります。